

一九世紀の 豪農・名望家と 地域社会

福澤 徹三 著

▶ A 5 判・320頁
ISBN978-4-7842-1642-0

定価 6,300円
(税 5 % 込)

2012年 7月 刊行

本書は19世紀の豪農・名望家と地域社会の関係を、上位権力(領主など)と都市と結び関係にも留意しながら総合的に検討することにより、近世・近代移行期の特質を解明するための地域社会論の提起を目指すものである。中核的豪農と一般豪農の経営レベルの比較、金融活動の分析を中心に、畿内・信濃の地域間比較の視点も加え、その生業・営為を近世・近代を通じて明らかにする。

※ 内 容 目 次 ※

序 章 本書の課題と構成

問題の所在／残された課題／本書の構成

第Ⅰ部 一九世紀の畿内における

豪農金融の展開と地域社会状況

第一章 近世後期の畿内における豪農金融の展開と地域

はじめに／享和～天保期の金融活動／天保後期～幕末期の展開／おわりに

第二章 畿内の無担保貸付への私的所有権確立の影響

はじめに／近世との比較と概観／明治三～一四年までの変化(発展期)／明治一五～二六年の変化(衰退期・低迷期)／岡田銀行の経営と貸付状況の分析／おわりに

第三章 地域金融圏における地域経済維持の構造

——中核的豪農と一般豪農の関係分析を中心に——

はじめに／伊賀村と西山家の経営概観／西山家の経営をとりまく環境／小作地経営の編成過程／貸付金の村内における機能と岡村岡田家との金融関係／おわりに

第四章 幕末期河内の地域社会状況

——棉作から米作への転換と
慶応期の社会状況の関係——

はじめに／幕末期岡村の社会状況／文久期の仏供田池の堀添普請／稲作率と棉作団地の関係／小作人層の作付動向／慶応期の肝煎制導入と小作騒動／おわりに

補 論 大坂本屋・正本屋利兵衛の

「武鑑」「在方本」の出版活動

はじめに／天保六年の正本屋利兵衛の出版活動／『大坂袖鑑』をめぐる神崎屋金四郎との類版出入／丹南郡岡村岡田家における『便用録』／おわりに

第Ⅱ部 信州における近世後期の金融活動

第五章 文化・文政期の松代藩と代官所役人の関係

はじめに／松代藩と代官所役人のやりとりの検討／上徳間村用水普請における「正式」と「内々」／今里村更級左門質地作徳滞出入における「内々」／おわりに

第六章 近世後期の信濃国・越後国における豪農の

広域金融活動——更級郡今里村更級家を事例に——

はじめに／今里村と更科家の状況／広域金融活動の概観と更科家の意識／松代藩領への貸付の展開と文化一四年五月の状況／証文形態の問題点と文政四～一三年の幕府評定所への出訴／天保・弘化期の回収過程／地域における質地金融の展開との比較／

終 章 本書の総括と今後の課題

各章の内容の整理／研究史上の意義と今後の課題

初出一覧／あとがき／索引(事項・人名・地名・研究者)

ふくざわ・てつぞう……1972年福岡県生まれ。一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了。現在、すみだ郷土文化資料館 専門員、埼玉学園大学非常勤講師、博士(社会学)。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注 文 票		発 行 : 思 文 閣 出 版		(京 都 取 引 コ ー ド 3402)	
冊 数	冊	一九世紀の豪農・名望家と地域社会		本体6,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1642-0
お 名 前			tel		
			e-mail		
ご 住 所	〒				
送本方法	☐ 書店経由(このちらしを最寄りの書店にお渡し下さい) ☐ 代 引(書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい)				
書店番線印					

幕末維新期の陵墓と社会

上田長生著

陵墓に政治的意味を付与し、祭祀を行おうとする政治権力（朝廷・山陵奉行）と在地社会の軋轢・葛藤が最も明確に現れた陵墓管理・祭祀に注目。社会における天皇の位置づけや天皇認識を町・村社会の具体的なレベルから広範囲かつ実態的に描き出し、幕末の天皇・朝廷と社会の関係を解明する。

▶A5判・400頁／定価6,510円

ISBN978-4-7842-1604-8

※近世後期瀬戸内塩業史の研究

山下恭著

赤穂・前川浜の塩田開発、龍野藩の塩専売制・赤穂塩の龍野・関東方面への流通を醤油業との関連でとりあげ、塩業史の問題を再検討。赤穂の石炭導入の経費と竹原の給銀分析を通して労働者の格式と賃金問題を第2編で取り扱い、塩業史の未開拓分野を埋める。

▶A5判・300頁／定価6,300円

ISBN4-7842-1287-6

明治期における不敬事件の研究

小股憲明著

天皇を中心とする明治政府の誕生以来、数多く発生しながら体系的な研究がされてこなかった不敬事件を、明治期について網羅。豊富な実例を整理・検討することによって明治国家の特質を考察し、天皇制と教育の関係、ひいては天皇制と近代日本および国民の関係を明らかにしようとする大著。

▶B5判・576頁／定価13,650円

ISBN978-4-7842-1501-0

※増補 郷土教育運動の研究

伊藤純郎著

1930年代に展開された郷土教育運動の歴史的意義を、柳田国男の郷土研究論と関連させながら、運動を推進した文部省、文部省とは異論を唱える郷土教育連盟、実際にそれをおこなう地域社会の反応を通じて、実証的に解明する。

▶A5判・506頁／定価10,290円

ISBN978-4-7842-1402-0

近代京都研究

丸山宏・伊従勉・高木博志編

歴史都市・京都は近代に大きく変わったまちであった——。京都という都市をどのように相対化できるのか、普遍性と特殊性を射程に入れないながら、近代史を中心に分野を超えた研究者たちが多数参加し切磋琢磨した京都大学人文科学研究所・共同研究「近代京都研究」の成果。

▶A5判・628頁／定価9,450円

ISBN978-4-7842-1413-6

熊本藩の地域社会と行政 近代社会形成の起点

吉村豊雄・三澤純・稲葉継陽編

永青文庫細川家文書に大量に残された地方行政記録綴「覚帳」や、村役人層をはじめとする住民の評価・褒賞記録綴「町在」の系統的分析を行うことで、19世紀段階の近世行政システムの全容を解明し、さらにそれらが近代社会の成立や地域の近代化にとって、どのような前提条件を提供することになったのかを明らかにする。

▶A5判・420頁／定価9,450円

ISBN978-4-7842-1458-7

明治維新期の政治文化

佐々木克編

“19世紀における国際環境の中で、明治維新を考える”という京都大学人文科学研究所の共同研究「明治維新期の社会と情報」の研究成果をまとめたもの。政治史、文化史、思想史、精神史を融合した“政治文化”という視点から、明治維新期の諸問題にアプローチを試みる。

▶A5判・390頁／定価5,670円

ISBN4-7842-1262-0

近代日本と地域振興 京都府の近代

高久嶺之介著

近代日本の地域社会の姿を、京都府下における、明治前期の京都官津間車道の開鑿・明治前期～中期にかけての琵琶湖疏水と鴨川運河の開鑿・明治初期～昭和の敗戦直後までの天橋立の保存とその振興・明治初期～昭和の敗戦直後にかけての童仙房村の開拓、という特定のテーマを取り上げ、地域振興の視点から考察する。

▶A5判・364頁／定価6,825円

ISBN978-4-7842-1570-6

黒正巖著作集

【全7巻】

黒正巖著作集編集委員会編

全7巻構成で1920～40年代に展開された黒正史学の全貌を明らかにする。世界恐慌期の社会経済史学の誕生に大きな役割を果たした黒正巖の業績は、アメリカン・スタンダードが席卷する21世紀平成不況下日本の研究者に意義深い問いかけを投げかけている。

▶A5判・総2800頁／定価58,800円

ISBN4-7842-1122-5

飛脚問屋井野口屋記録

【全4巻】

大阪経済大学経済史研究所史料叢書第4～7冊

渡邊忠司・徳永光俊共編

尾張領内と京都・大坂・江戸を中心に各地域を結ぶ尾張飛脚の飛脚問屋であった井野口屋の記録。享保8年(1723)から天保14年(1843)までの記録を収め、近世の飛脚史・郵便制度の資料的空白を埋める貴重な史料。

▶A5判・平均450頁／揃定価42,630円

知の伝達メディアの歴史研究 教育史像の再構築

辻本雅史編

「教育」を「知の伝達」ととらえ直し、その伝達のための媒体を「メディア」と規定することで、これまでのような、学校を中心とした教育史像ではなく、学校を含みながらも、学校を超えたところでなされる人間形成の営みを、全体としてとらえなおす視点を提示する。

▶A5判・300頁／定価5,985円

ISBN978-4-7842-1500-3

文人世界の光芒と古都奈良 大和の生き字引・水木要太郎

久留島浩・高木博志・高橋一樹編

近代奈良において個人により形成され多様な史資料の「かたまり」である水木コレクションを主な分析の素材とし、日本史学・考古学・建築史学・国文学・美術史学・地理学・社会言語学等にわたる学際的な一書。国立歴史民俗博物館の共同研究の成果。

▶A5判・508頁／定価8,190円

ISBN978-4-7842-1481-5

みやこの近代

丸山宏・伊従勉・高木博志編

研究分野の相違を問わず、「近代の歴史都市としての京都」についての基本的な諸問題を多角的に論じようとする開かれた京都大学「近代京都研究会」で論じられたさまざまな分野の具体的な主題をもとに近代現代の京都の根本問題を見通す視座を形成しようとする試みの85篇。

▶A5判・268頁／定価2,730円

ISBN978-4-7842-1378-8

畿内の豪農経営と地域社会

渡辺尚志編

18世紀末以降、河内国丹南郡岡村（現藤井寺市）の庄屋を世襲した豪農岡田家が、近世・近代において作成・授受した「岡田家文書」は、1万数千点にもおよぶ。近年整理が進められている岡田家文書を多角的に分析し、畿内における村落と豪農の特質を経済・社会構造の観点から解明する。

▶A5判・508頁／定価8,190円

ISBN978-4-7842-1385-6

※鉄道日本文化史考

宇田正著

日本の近代化のなかで陸蒸気＝鉄道がもたらしたものは、はかり知れない。本書では「文化の鏡」としての鉄道をとりあげ、知識人の体験や一般人の認識から民俗・観光（巡礼）・教育との関わりを通して、鉄道が日本人の内的形成に果たした文化的役割を明らかにする。

▶A5判・352頁／定価5,775円

ISBN978-4-7842-1336-8

伝統産業の成立と発展 播州三木金物の事例

桑田優著

兵庫県三木市の伝統産業、三木金物は近世後期に勃興し、現在にいたっている。本書は、流通機構の発達など社会的な背景にも着目し、三木金物が特産品として全国市場へ進出してゆく過程を跡付ける通史である。

▶A5判・口絵2頁・本文300頁／定価6,825円 ISBN978-4-7842-1523-2

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。